



ゲイツ財団から支援12億円

長崎大 ワクチン調査

ベトナムで肺炎球菌研究

約1千方(約12億円)の支援を受け、ベトナムで小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数と効果の関係を調べる研究に乗り出すと発表した。世界保健機関は、1歳半までに3回のワクチン接種を推奨しているが、ワクチンが高価な途上国を念頭に、少ない接種での効果を調べる。

長崎大によると、ゲイツ氏の財団から大学の研究で億単位の支援を受けるのは日本で初めて。

研究はベトナム、英国、オーストラリアの研究機関と来年1月から4年間、ベトナム中部のニャチャン市で実施する。新たに生まれた子どもたちを3グループに分け、グループごとに1〜3回接種。接種しない1

長崎大は19日、米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏が設立した財団から

接種効果を大規模検証

小児用肺炎球菌ワクチン

長崎大熱研 ベトナムで1万3500人

長崎大は19日、小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数を1〜2回に抑えても効果があるかどうか検証する約1万3500人規模の大規模調査を、来年1月からベトナムで行うと発表した。米マイクロソフト創業者ビル・ゲイツ氏が設立した「ピル&メリンダ・ゲイツ財

団」が約12億円を助成する。長崎大熱帯医学研究所(熱研)によると、接種回数の効果を検証する大規模調査は世界で初めて。主任研究者の吉田レイミント准教授(小児感染症学)は「高価なワクチンの接種回数を減らせば発展途上国でも接

種しやすくなる。子どもの体への負担も軽減する」と話している。

世界保健機関(WHO)は小児用肺炎球菌ワクチンが十分な効果を得るために3回の接種を推奨している。吉田准教授は、大多数の人が肺炎球菌の免疫を持

つ「集団免疫」が地域で確立していれば、1〜2回の接種で効果があるという研究結果に着目した。

調査は来年1月から2019年末まで、熱研が研究拠点を置くベトナム中部のニャチャン市で実施。3歳未満の全ての子どもにワクチンを接種して集団免疫をつくった上で、新生児を三つのグループに分け、1歳までにそれぞれ3回、2回、1回ずつワクチンを接種。各グループの保菌状態や肺炎の発症数を比較して効果を検証する。

熱研によると、世界で年間約80万人の5歳未満児が重症の肺炎球菌感染症を発症し、死亡率は10〜15%と

長崎大によると、国内の大学や研究機関がゲイツ財団から大規模助成を受けるのは初めて。片峰茂学長は「世界の人々の健康に資する教育・研究機関を目指す中、世界的な財団から評価と支援を得られたのは大きな喜び」と話した。(松尾潤)

ベトナムでワクチン調査
長崎大肺炎用で来年から
長崎大学は19日、ベトナムで肺炎球菌ワクチンの効果を確かめるための大規模な調査を2016年から始めること発表した。3回推奨されている予防接種が、1回か2回で済むかどうかを確認するため、ベトナムのニャチャン市の3歳未満の小児を対象に集団によってワクチン接種の回数を変えて、免疫の効果を調べる。

長崎大は19日、小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数を1〜2回に抑えても効果があるかどうか検証する約1万3500人規模の大規模調査を、来年1月からベトナムで行うと発表した。米マイクロソフト創業者ビル・ゲイツ氏が設立した「ピル&メリンダ・ゲイツ財